



佐世保市立大野中学校

所在地：佐世保市松瀬町 838 番地

校長名：宮原 龍美

生徒数：672 名（22 学級）

校 訓：「至誠をもって生涯を貫こう」

1 特色ある学校づくりに対する基本姿勢

本校は、これまで生徒の心の教育や道徳実践力の育成を図るため、各教科や日々の教育活動の充実、教育環境の整備を行ってきた。今年度も「大きな志と真心を持ち のびる生徒の育成」の学校教育目標のもと、次の視点で特色ある学校づくりを進めた。

- (1) のびる知性
- (2) のびる徳性
- (3) のびる体力・自信
- (4) 開かれた学校づくり



2 実践内容

(1) のびる知性

①授業改善研究

本校では昨年度、2 か年の研究の成果を「授業改善研究発表会」で発表した。その際に確立した「大野中学びのスタイル」を、本年度も継続して実践し、生徒の学力の向上に努めた。特に「めあての提示をして見通しをもった授業を展開することや、「掲示教育等の授業環境」に工夫を凝らし、学校全体を「学びの空間」とすることなどを通して、生徒の思考力、判断力、表現力の育成に努めている。

②人権・平和学習

本校では、過去に痛ましい事件が起き、そのことを教訓として「いのちを考え、大切にす」ために「あすなるタイム」を設定し学習を行っている。

6月20日の平和集会では、講師を招聘し、佐世保空襲の体験談を語っていただくことで、子どもたちに、平和の尊さを訴えていただいた。

8月9日の平和集会では、平和集会実行委員会を中心に、戦争の悲惨さ・原爆の恐ろしさについて、まとめたことをスライド等を用いて発表し、全校で平和の大切さについて改めて考えた。

12月には、数回にわたり人権学習を行い、自分の行動と照らし合わせて考え、各学級ごとに人権宣言を行い、



いじめは絶対にしない、という強い意思を互いに高めあった。

(2) のびる徳性

①校外における体験活動の充実

第1学年：野外宿泊学習

平成26年9月10日～12日の3日間で実施した。新しい友人関係を築き、その後、3年間の中学校生活を充実したものにしてほしいという願いをもって実施した。また、今年度は活動の中に「シーカヤック体験」を取り入れ、生徒の自然を愛する心を育成し、ふるさと佐世保の美しさを体感させることができた。生徒たちは、リーダーとして班や学級を引っ張ることに苦心したり、ルールを守り班全体で行動することの大切さを学ぶなど、大変意義ある学習となった。



第2・3学年：職場体験学習

本年度は、2、3学年で職場体験学習を実施した。3年生は6月24日から26日、2年生は9月9日から11日の3日間実施した。延べ116カ所の地域の事業所において、厳しくも優しい指導をいただいた。職業や勤労に対して関心を持ち、望ましい職業観を身につけるとともに、将来の生き方、あり方を模索するきっかけとなった。また、その後のレポート作成においても、進路意識の向上や、望ましい人間関係の確立に対して、成長の跡が見られた。



②朝礼十訓の実践

毎朝、8時15分から「朝礼十訓」を、全校生徒で3回唱和するのが本校の朝のスタートである。校長の放送とともに、朝のあいさつの後、毎日日替わりで「学校教育目標・校訓」「仁義礼智信の五徳」「大野中平和宣言」「大野中人権宣言」など、1分程度の言葉を唱和する。明るく前向きになれる心地よい言葉や、自己肯定感を高め愛校心を高める言葉などを唱和することで、生徒の自信を高めている。生徒たちは、学校の自慢を自信をもって語る力強さが身に付いてきた。



③文化芸術による子どもの育成

文化庁が実施している「文化芸術による子どもの育成事業」に応募し、邦楽グループ「玉手箱」のみなさんに2回にわたり来校いただき、ワークショップとコンサートを行っていただいた。9月のワークショップでは、2年生234名全員が、箏、尺八、三味線の3つの楽器を体験演奏し、その演奏の難しさと楽しさを体感した。また、12月のコンサートでは、生徒になじみの深い曲目を演奏していただいたり、20名の生徒を加えて演奏したりと、全校生徒の心に感動を与えるコンサートが実現した。本校の10～12月の重点目標「文化の香り漂う大

野中」を締めくくるイベントであり、情操教育の一環として大変効果的な取組であった。



(3) のびる体力と自信

①体力の向上

本校の体育大会は、例年盛り上がる体育大会として保護者に好評で、今年度も1,200名を超える応援のもと、積極的な活動を見せた。特に男子の組体操、女子のダンスに地域・保護者の盛り上がりは最高潮に達した。

佐世保市中学校体育大会では、堂々とした行進に、選手・応援の生徒の心が一つになり、大会を盛り上げた。陸上競技女子総合9連覇を始め、軟式野球、ハンドボール男女が団体優勝を果たした。特に軟式野球では、全校生徒の応援で、感動的なサヨナラ勝ちを収め、学校の活力となった。

また、県中総体でも活躍し、ハンドボール男女が優勝、軟式野球は準優勝し、九州大会に出場した。

②健康教育の充実

歯科保健の充実

健康教育の充実として、歯科保健の充実を図った。6月には、歯科校医の先生による講話をいただいた後、九州文化歯科衛生士学院の生徒さんによるブラッシング指導を、1年生対象に実施した。216名の生徒を対象に、40名の指導者がブラッシング指導を行ったことで、生徒の歯磨きに対する意識は変容し、その後の給食後の歯磨きが定着するきっかけとなった。



食育・DV講演会の実施

12月には、2年生を対象に食育講演会を実施した。管理栄養士の村元先生をお呼びして、生徒と保護者を交え、ユーモアたっぷりの講演をいただき、最も身体の成長が見られる2年生の時期に、いかにバランスよくしっかりと食事をするのが重要かを、懇切丁寧に指導いただいた。



また、3年生を対象に、DV防止講演会も開催した。これから関わるであろう男女交際において、互いを尊重し、高めあえる関係づくりをするためのスキルについて、外部講師よりご指導いただいた。

③生徒会活動の充実

基本的な生活習慣の育成と定着を図るため、生徒会の活動として「遅刻0の日、150日」を目指している。生徒の自治的活動を意図した生徒会活動や部活動を通して、過ごしやすい学校づくりと逞しい体づくりに努め、活力ある学校づくりを図った。

(4) 開かれた学校づくり

①スマホに係る大野中家庭教育宣言（PTAとの関わり）

現代社会において、携帯・スマートフォンの普及は中学生に影響を与えており、何らかの基準を作る必要がある。そこで、PTAと連携し、「スマホに係る大野中家庭教育宣言」をPTA総会で決議していただいた。家庭における約束事に一定の基準を設けたことで、生徒の安全が保たれつつある。

また、メディアに関して、生徒・保護者に意識付けを行うことを目的として、メディア講演会を1年生の生徒と全校の保護者を対象に7月に実施した。メディア安全指導員

の内田先生に講演していただき、生徒にわかりやすい例えを用いながらその便利さと危険性を伝えていただいた。

その後さらに、メディアについて共通認識を得るための「保護者と教師のメディアに関するワークショップ」を実施し、学校と保護者が連携して生徒を守る意識を共有した。



②地域行事への積極的な参加

健全育成会主催のワークショップには、生徒会のリーダーを中心に、小学生とともに地域の活性化に向けた討論会を実施している。今年度も、20名の生徒が、近隣の小学生とともに、ワークショップを行った。

また、むかし遊びのつどいには、野球部や陸上部など、部活動単位で約60名の生徒が参加し、地域の大人と交流を持つことで、幅広い視野をもつことができた。



③PTA、おやじの会との連携

本校のPTA・おやじの会の活動は活発であり、子どもたちのために、日々何ができるかを追求し、活動をしていただいている。特に長距離歩行大会と餅つきは、例年盛況であり、子どもたちの体力の増進と、心の成長を促している。

